

第1回新たなミュージアムに関する管理運営計画懇談会の意見概要

管理運営計画の検討におけるポイント	意見概要	対応の方向性
これまでの取組の継承と事業・組織の段階的な進化について	- 他館とのちがいとして、被災収蔵品レスキュー作業の修復機能を挙げている点は非常に重要であり、全国的なモデルにもなるため、<u>専門人材や修復機関との連携体制の充実が望ましい。</u>（井上委員） <u>市民ミュージアムしか持っていない被災の経験を、どのように継承して伝えていくかが、市民ミュージアムのカラーになる。</u>（長門委員） - ミュージアムの間口を広げることも大切だが、その先にある「<u>そこに行ったら何ができるのか</u>」という点が、他館と差別化するための重要なポイントになる。（長門委員） - 学芸員の専門外の役割には、その専門の人材が必要であると考える。（長門委員）	- 他館とのちがいとなる<u>修復機能について、運営体制の具体化の検討を進める。</u> - 被災の経験の継承は大事な点であると考えているので、<u>修復機能については、事業の具体案の検討を進める。</u> - ミュージアムの<u>独自性として何を打ち出していくか</u>検討する。 - 必要な組織体制・人材については<u>今後の検討の参考とする。</u>
「ともに創るミュージアム」としてのあり方の具現化について	- 基本計画において、使命の解釈としている「<u>ともに創るミュージアム</u>」には修復も当てはまるのではないかと、修復を通して愛着をもってもらおうと支援者も増える。（垣内委員） - 一緒にミュージアムを創っていく人々の<u>機運醸成のために、インアクションで開館までの助走をしっかりと。</u>（金子委員） - ことラーの活動拠点となる、新たなミュージアムの拠点施設ができることで、<u>ことラーの視野がミュージアムだけに狭まらないような取組ができるとよい。</u>（小寺委員(公募委員)） <u>事業計画の地域共創事業と、交流機能が分断されているように見えるので、ともに創るミュージアムが伝わりにくい。</u>（平井委員） - 主たる担い手となる、ことラーやボランティアなど、<u>強くミュージアムとつながっている方々との関係と事業の設計を、地域共創により組み込んでいくとよいのではないかと。</u>（平井委員）	<u>修復も「ともに創るミュージアム」になりうると考えるので、幅広くとらえていく。</u> - インアクションについても<u>学芸ヒア等も実施し検討していく。</u> - ことラーの活動については<u>今後検討を深度化していく。</u> <u>地域共創機能と交流機能はシームレスな部分もあると</u>考えているので資料の見せ方を工夫する。 - 地域共創について、管理運営計画では<u>市民とのつながりと事業の方向性を記載する。</u>
新たな層へのアプローチについて	<u>未来館者調査</u>をしっかりと行ったうえで、<u>これまでの館の課題を浮き彫りにし、新たなミュージアムの形成に活かすべきである。</u>（井上委員） - これまでの対象に加え、新たなミュージアムでアプローチをしていく「新たな層」は若年層だけでなく、例えば「近隣だからこそ行ったことのない人」なども含まれると思う。（小寺委員(公募委員)） <u>作品鑑賞以外の目的でミュージアムを訪れることができると、ミュージアムファンの獲得につながるのではないかと。</u>（小寺委員(公募委員)）	- これまでの実施に引き続き、今後も課題認識のため<u>未来館者への調査も検討する。</u> - 新たな層は若年層だけでなく、<u>幅広い想定としている。</u> - 他館の貸館事例を調査し、施設の市民利用について、<u>管理運営計画で考え方を記載する。</u>
「まちなかミュージアム」及び生田緑地4館との連携による情報発信力の強化について	- まちなかミュージアムのリードタイムである今、まちなかミュージアムの<u>効果と制約や課題を精査することが重要である。</u>（垣内委員） <u>生田緑地内の各施設との連携については、市民ミュージアムがコアとなって、どのような市民サービスを提供していくのか検討していくとよいのではないかと。</u>（金子委員）	- まちなかミュージアムについては、<u>課題をしっかりと検証して何ができるか検討していく。</u> - 生田緑地内の連携のため、管理運営計画策定に向けて<u>事業の具体案を検討していく。</u>
継続的な評価・改善の仕組みづくりについて	- 事業評価の測定手法を先に検討するのではなく、各機能を通じて地域社会にどのような価値、インパクトを生み出そうとしているのかが先にある。まず、<u>事業効果を検討してから、プログラムや評価手法を検討するとよいのではないかと。</u>（源委員） - 新たなミュージアムの場合は、適切に行えば、<u>外部評価よりも内部評価が適切だ</u>と考える。（源委員）	- 事業評価に対する考え方の検討にあたり、<u>評価手法ありきで検討するのではなく、事業目的等を見据えて検討する。</u> - 内部評価の採用等については<u>今後検討していく。</u>